

令和5年度（2023年度）

第一回 吹田市立博物館協議会

議 事 録

日 時 令和5年（2023年）5月19日（金） 午後1時30分 ～ 午後3時
場 所 吹田市立博物館 2階 講座室
出 席 飯塚・岩崎・小田・勝田・齋藤・山口・橋爪・中久保・澤井・佐久間 各委員
欠 席 小川・八代委員

【1 開 会】 高橋館長（出席状況の確認）

*出席委員数は全委員12名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 特別館長あいさつ】 中牧特別館長 挨拶

【3 職員の異動】 報告と自己紹介（資料p.2 博物館組織図・職員配置図参照）

【4 案件（1） 議長・副議長の選出】 議長；橋爪委員 副議長；佐久間委員

【5 傍聴報告】 傍聴者なし

【6 案件（2）事業報告（令和4年度）について】

（議 長）案件（2）事業報告（令和4年度）について、事務局から説明をお願いします。

*事務局から説明

（議 長）（2）事業報告について、委員の皆様からご意見等がございましたらよろしくをお願いします。

（副議長）私から1つ質問を。夏季展について、見ていて見づらかったという意見もありましたけれど、企画自身は良かったと思います。企画した市民の皆さんの思いが前面に出ていて面白かったと思いますし、会話形式での企画等も良かったと思いますが、あれをどう見やすい展示に、子供たちにも伝わるという工夫のところでは、市民まかせにするのは難しいと思います。そこにどう学芸員さんが関わっていただいて、良い展示にしていけるか。限られた夏季展では難しいと思いますが。できれば同じテーマでもう1年やってもいいのではないかと。同様の展示をもう一度リバイバルして作り直してみるというのは、ある意味アプローチだと思う。市民連携展の在り方というものに、博物館展示物的な観点から、学芸員の関りについて今後どうしていくかについて検討願いたい。

あと2つだけ。むかしのくらしと学校展について、学習指導要領が少し変わっているが、どう工夫されたかを教えていただきたい。多分、このままだと学校の利用意欲が、少し下がってしまうのではないかと危惧しています。

もう1つは、企画展示でたくさんの応募があつて応えられなかったという報告がありましたが、この協議会は、報告をして反省をするということだけではなくて、次どうしたらうまく改善できるかと

というのが眼目にあると思いますので、そういった工夫ができないかなということと、ユーチューブ利用者も、利用者数にカウントすべきだと思いますので、検討いただけないかと思います。

夏季展とむかしのくらしと学校展、ユーチューブ利用者の3点をお願いします。

(議長) 今の点について事務局からお答えください。

(事務局) 夏季展示について、今回は特に吹田に特化した吹田カラーの出た展示となったと思います。企画段階から注目していました。展示についてのアドバイスも不足していた部分がありましたが、もう少し市民の皆さんと会話を重ねながら進められたらと考えています。今後、リバイバルということについては、夏季展示は毎年新たに市民を募集しているというスタイルがあり、前回の研究を生かしながら取組んでいけたらと考えています。

(事務局) むかしのくらしと学校展について、学習指導要領に合わせて作成している副読本では、まちづくりとか千里ニュータウンというのが取り上げられるようになりましたので、展示室内は例年どおりでしたが、常設展示室を利用して千里ニュータウン開発前後、航空写真で見比べるであったり、バスウォールのあたりで解説する時間を作ったり、1970年の万国博覧会について子供たちとコミュニケーションをとったり、吹田市内の学校教育がどのように進められているかなど、昭和の暮らしから千里ニュータウン建設時までのまちの移り変わりなどを、子供たちと話す機会を作って取組を進めました。

ユーチューブの視聴者数を博物館の利用者数に加えるかについてですが、昨年館報から年間の利用者数に加えて人数を出しています。

(副議長) ぜひ、外部講師の時でも応募者が多くなった場合のユーチューブの配信などもご検討ください。

(議長) 他の委員の方からご意見等をお願いします。

(委員) p.3の年度別利用者別集計表とありますが、利用者の総数は、有料観覧者と無料観覧者と講座受講者数を足してカウントしているのですか。

(館長) そのとおりです。

(委員) p.5の報告の中に会期中観覧者数と総入館者数とありますが、利用者数のことですか。

(館長) 表現が一致しておりませんが、入館者数は利用者数のことです。

(委員) 吹田市立博物館第3次中期計画は、入館者数に統一されていますので、インターネットでの利用者数を含めるかどうかなど、統一する必要があるのでは。

(館長) 入館者数とあるところはすべて総利用者数となります。次回から統一したいと思います。

(委員) 吹田市の上位の計画に入館者とあるのでそれに合わせる必要があるのでは。これは厳密にいうと入館者しかカウントできないことになるので、そのあたりは気をつけないといけないのでは。

(館長) 後ほどの説明になりますが、吹田市の上位計画と博物館の中期計画の策定期も異なり統一できていないところがありますので、どこかで統一していきたいと考えています。

(議長) 他の委員の方で意見のある方、をお願いします。

(議長) 私から質問ですが、今年度の4月・5月と新型コロナウイルス感染症への対応が変わってきている中での傾向をお伺いしたい。

(館長) 特別展示が始まったのが4月29日でしたので、4月は大きな動きはなかったと思います。特に今年度の春の特別展には多く来館いただいています。特に講演会の申し込みが圧倒的に多くて、新型コロナウイルス感染症の対応が続いていて80人という定員にしているのですが、それに対して2倍ある

いは3倍近くの応募をいただき、好評をいただいていると思っています。

(委員) 来館者がどこから来られているというアンケートをとっているのですか。

(館長) アンケート項目として、「どちらにお住まいですか」ということで、市内及び市外、市外であればどこそこの市ということをお尋ねしています。

(議長) 他に委員の皆さんからございますか。

(委員) 講演会が4回に分けて行われていますね。それに関し定員の2倍近くの方が応募されていますが、抽選にもれた方のためにも、もう一度やっていただけないか。あるいはユーチューブのお話がありました。動画配信でも構わないのですが、スペースの関係もありますが、同日に3階とかにスクリーンをおいて動画配信し、それを観覧できるというものがあってもいいのではと考えるのですが、その辺はいかがでしょうか。

(学芸員) 今回かなり好評をいただいている、落選された方には大変申し訳ないと思っています。オンラインで講座を紹介できるかどうかは、講師の先生方のご意向もでございます。最近の講演会では画像とかを使って行っていますが、オンラインとかで配信するとなると許諾をとらないとといった問題もあり、はっきりと断られる講師の方もおられます。ユーチューブなど、どこでどのように活用されるか分からないところにUPするというのは、そういった手続きも必要になってきます。また、館内での上映については、可能であればオンライン等で紹介していきたいですが、すべてUPできるわけではないということも理解していただきたいところです。

(副議長) 今の許可を得なければならないという理由でもってというのは、ちょっと思いすぎのところがあります。本来、著作権は全部ついているものですから、公開権に関しては基本的には法的にクリアなのです。慣習的なものはたくさんあります。ただ、それをそのまま博物館側が肯定してしまうのはあまりよろしくない。それと、ライブ中継のみというやり方もありますので、そのあたりはもう少し積極的になってもいいのではと私は思います。

(学芸員) そういったご意見もあると思いますが、講師の先生方のご意向もありますし、できるだけ前向きには捉えていきたいと考えています。

(館長) 会場の中で生中継して、例えば土器を見るとか、そういったことは可能かなとも思います。いろいろな方法を考えながら、より多くの人に楽しんでいただき観ていただけるよう、より良い方向にもっていければと考えています。

(議長) 他の委員の方、いかがですか。

(委員) むかしのくらしと学校の展示についてですが、私は、子供たちをキャンプに連れていっているんですが、トイレのないところで、地面に穴を掘ってトイレをさせるのに、しゃがんでトイレをする経験がありません。しゃがむという経験も必要です。なぜかというと、震災での避難所でトイレが整備されるまでの間、どうやってトイレをするのかということに非常に危惧しています。学校での和式トイレはしゃがむ練習用に残しておいていただきたいと思います。このような体験が避難所等で必ず必要になってきます。展示のところでそんな工夫ができないかなと考えています。ただ、和式トイレには壁等があるが、野原の場合はそれもない、雨が降ったら傘をさしトイレトペーパーを抱えながらという状態です。ちょっと参考にいただければと思います。

(館長) しゃがむ体験をできるように便所の模型を作って展示はしてあります。子供たちには避難所での体験も話しながら取り組めたらと考えています。

(委員) 学校の避難所等、屋外での行動に困らないようにと思っています。

(議 長) 先ほどのアンケートにあった、常設展の一部を特別展で使うという時には、関西大学博物館の先生にお伺いしましたが、大きな表示を出して、次にやるときには第2章にすればいいと思います。展示場のやり方なのでお考え下さい。

それから、神崎川展が行われましたが、神崎川をめぐるというのがあって、それは先日、大阪成蹊大学での学会に行きましたが、2つの川に挟まれた大阪市内、中州的なところがおもしろいので、映像にとって流せばと。皆さん見たことがないような川から見た映像というのは面白いのではないかと思います。それからもう1つ調査研究について、次年度以降に関係するのではないかと思います。千里中央のセルシーの建て替えをしているが、あれこそ1970年万博時のシンボリックな未来都市的なもので、トイレトペーパーの買い占めとか、あれに関して資料を収集しおいてはどうかということで意見を申し上げました。

(館 長) ニュータウンの資料などを残しておくこと、具体的な資料を収集するという事は大事なことでと考えています。博物館重点資料、収集資料ということで考えています。ニュータウンのことに、取り組ませていただきたいと考えています。

(議 長) セルシーの資料について具体的に収集できるものがあつたら。1970年代頃に作った倉庫にしまっている物とか、そういう写真資料や文献資料、チラシとかあると思います。そういったことを意識された方がよいのではないのでしょうか。

(館 長) はい、ありがとうございます。

(議 長) 次に、令和5年度事業計画についてお願いします。

【7 案件(3) 事業計画(令和5年度前半について)】

(議 長) 案件(2) 事業報告(令和5年度前半)について、事務局から説明をお願いします。

*事務局から説明

(議 長) 今のご説明に対して、委員の皆さんからご意見、ご質問がございましたらよろしくお願います。

(議 長) 西村公朝作品のミニ展示という言い方でよいのか。集客的にはもう少し良い言い方はないのかと思いますが。それから、四条派展について、大坂四条派という言葉が含まれているかどうか、大坂画壇の四条派という言い方だと思いますが。また、展示主旨に四条派とは違う人の名前が挙げられているのではないのでしょうか。

(委 員) p.31の展示図録は、令和6年度秋季ではなく春季展示図録だと思います。事業評価の夏季展示について、実行委員会形式をとっていて、皆さんで作っていただいたものを土台にして展示をするということになっているのですか。

(館 長) まず、p.31の展示図録、令和6年度秋季特別展図録とありますが、これは春季の間違いです。予算の編成上の関係で、春季の図録を4月から作り始めると間に合わないということになりますので、前年度に作ってしまうということになります。

次に、実行委員会についてですが、まず博物館で実行委員を秋から冬の初め、前年度の11月に募集をかけて、12月から活動を始めます。十数名の方が2週間に1回くらいの頻度で実行委員会を開催しています。そこで、どういうテーマにするか話し合い、近年は「めぐる・かわる・つながる」をテーマにして継続して取組んでいます。学芸員は、進捗状況の確認やイベントの調整など関連イベントを決めていきます。実行委員の方がアイデアを出して、どういう展示をしようかということを決め

ていただいています。基本的に市民の方の意見を反映させながら展示内容を決めています。展示アドバイザーを入れるかについても実行委員会の中で考えて行っています。学芸員が求めに応じてアドバイスすることはあります。

(委員) 今年度分はほぼ固まってきているということですね。

(館長) 中々スケジュールどおりには行かなくて、今年度は展示内容について細かいところまで決まっています。

(副議長) 今の件について、博物館実習生に対してはあると思いますが、市民ボランティアの活動に対しても同じくらい学芸員が意見を述べる場があってもよいのではと思います。市民の方と博物館とで、これくらいのこと大事にするんですよということをちゃんとお伝えしなくてはいけないのではないのでしょうか。学芸員がもっと関わってもよいのではないかと思います。

前から思っていたのは、健都ライブラリーを観させていただいたのですが、図書館だからというか指定管理者というのがあって規制されています。ということで、せっかく面白いものが展示されていても、何のハンドアウトもない、何も写真も撮れないとなると、観ている方にはすごくストレスが溜まります。博物館が持っているものに関しては、このコーナーは写真を撮ってもいいですよというように、博物館の所蔵品に関して問題のないものについては写真OKにしてもいいのではないのでしょうか。

(館長) 考古資料に関しては、写真を撮ってもらっても著作権の問題ありません。健都ライブラリー側にもそういったルールがあると思いますので、展示ケースだけの展示になるかもしれませんが、写真撮影に関しては検討材料とさせていただきます。

【8 案件(4) 課題討論(令和4年度事業点検・評価について)】

(議長) では、時間もございますので、案件(4)の課題討論へと進めたいと思います。令和4年度の事業点検・評価について事務局から説明を求めます。

＊事務局から説明(吹田市立博物館第3次中期計画の位置づけ及び事業評価について)

(議長) 時間が来ておりますが、今後どんな作業をすればいいのですか。

(館長) これからお願いしたいのは、令和4年度吹田市立博物館事業評価(案)の外部評価をお願いしたいというのが今回の趣旨であります。1ページ目の自己評価欄が空欄になっていますが、「A」と記入願います。大項目ごとに評価をいただき、コメントを記入していただければと考えています。

スケジュールとして次回の協議会を10月に予定していますので、6月末ぐらいまでに外部評価についてのコメントをいただきたいです。令和4年度自己評価記入シートを作成していただき、回答はメールやFAXでいただけるようお願いいたします。事務局で集約し、10月の協議会で審議いただきたいと考えています。

(議長) 書式をメールで送ってください。

(館長) メールで送らせていただきます。

(議長) 事務局からは以上ですか。

委員の方でご意見はございますか。

(委員) 令和5年度事業計画についてですが、本日配付いただいている博物館だよりp.3に西尾家住宅の大規模修繕についてという中に、修繕の時にしか見られない内部見学会を予定しているとありますが、いつ頃の予定でしょうか。

- (課 長) 秋頃を予定しています。市報8月号か9月号、またホームページで掲載予定です。
- (副議長) 先ほど質問のあった、入館者数なのかどうかについて、字面としては入館者と書いてあるのですが、間違いなく利用者数ですよね。利用者数と私たちは読み替えてもよろしいのですか。
- (館 長) 結構です。
- (副議長) もう一ついいですか。JICAについては復活するのですか。
- (館 長) 学芸員がJICAとつながっていて情報が入ってきていたんですが、つながりを持つ職員がいなくなりましたので、今は連絡がとれていない状況です。
- (議 長) 自己評価点のところを見ていて、AAは一つもなかったのですが、大規模改修の市役所内での合意の必要性というのがありました。
- (館 長) 大規模改修で常設展のリニューアルをやるとは言ってくれていません。ただ、そのために根拠として市民のニーズがあるということを示してくれと言われています。
- (議 長) 他にどなたか。
- (委 員) ボランティアの登録者数は何人くらいですか。
- (議 長) むかしのくらしと学校展で30人くらい登録いただいています。吹博の会は5、6人、実行委員が13人くらいで、後は1人とかといった人数です。
- (委 員) ボランティアさんだけではなくて、データだけで示されることが多いが、補足をお願いしたい。
- (議 長) 他によろしいですか。
- (館 長) 外部評価についてよろしく申し上げます。
- (議 長) それでは、これで第一回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。引き続き、特別展示「大坂の陣と吹田村」をお時間のある方にご観覧ください。
- 本日はありがとうございました。これで終わりとさせていただきます。